

H22年度学校評価 今年度のまとめ [評価と課題]

教務	<p>今年度の評価・反省:</p> <p>良かった点(項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 教師・生徒・保護者いずれの項目においても、若干ではあるが昨年より評価のポイントが上がっている。 ○ 教師の評価では、高評価が80%を下ることはなかった。教務に係わる設問で14項目中5項目で高評価が90%を超えた。 ○ 生徒の評価において、問8「自分の学力に応じた授業や、系列の特色を生かした授業が行われている」で78%が高評価となった。 ○ 保護者の評価において問4「教育課程や履修登録の目標内容に関して生徒・保護者に説明が十分なされている」(76%)、問7「評価は様々な観点から、公正公平に行われている」(71%)、問8「保護者が授業参観する機会がある」(75%)、問15「学校行事が計画的に行われている」(84%)という数値となった。
	<p>反省点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の評価において、問7「選択科目や必修科目が自分の個性や進路に合っている」(高評価70%、低評価30%)であり、2・3年次における科目選択が必ずしも納得の上でなされていないことが伺われる。 ● 生徒問9「多くの先生方は、判りやすい授業をしてくれる」(高評価60%、低評価40%)であった。同じ質問で保護者においても(高評価52%)であり、昨年に引き続き(昨年生徒は高評価57%)課題と言える。ただし、保護者の評価においては「わからな」が30%もあり(これは本当に正直な答えだと思われる)、授業の様子を保護者が見られない環境を改善しなければならない。 ● 生徒問12「多くの先生方は公正で公平な評価をしてくれる」(高評価58%、低評価42%)であった。昨年に比べ2ポイントアップしたが、評価に関する教師と生徒のギャップはなかなか埋まらないものかもしれない。
	<p>来年度へ向けての課題・目標:</p> <p>ここ2年ほど、教師・生徒・保護者のいずれの評価においても、僅かずつではあるが、高評価のポイントがアップしてきている。まだまだ、改善すべき項目も多いが教務関係全体の方向性としては、この方向で進んでいこうと考える。急ぎ改善すべき点としては、「わかりやすい授業」の提供である。それぞれの授業の中で、毎時間「わかった」と思えるものを一つでも多く提供すること。授業改善や工夫をして我々教師のレベルを上げることで、この課題に立ち向かっていかなければならない。</p> <p>「選択科目や必修科目が自分の個性や進路に合っていない」と感じている生徒が30%いる。同じく「履修ハンドブックを活用して、科目選択や進路指導がなされている」も低評価が30%となっている。ハンドブックがどうしても7月にならないと発行できないことから、ハンドブックの活用よりも「いかにして生徒を本気にさせるか」履修について「考える」「悩む」を真剣にさせる場面・時間を十分に取らせられるようにする必要がある。</p> <p>昨年も、このコメントに記したが、達成できなかったと感じた生徒に直接その要因を聞き、改善の具体策を講ずる手だてを探りたいと感じる。そのためには、教務に関する独自の生徒アンケートも必要かと思う。</p> <p>「授業参観」については、今年度からPTA総会を祝日に実施し、併せて授業参観を設定したので授業を見る保護者が増えた。来年度以降もこうした設定とすること。さらに保護者が授業参観できる機会を作りたい。</p>
生徒指導	<p>今年度の評価・反省点:</p> <p>良かった点(項目)</p> <p>本年度女子制服(キュロットスカート)の統一年度としてスタートし、スカート丈の短い生徒が減り落ち着いた雰囲気になりつつある。また、ベスト、セーターの制服完全化にむけても生徒の中に浸透しつつあり乱れがなくなったような気がする。服装・頭髪指導においても職員の同一歩調と共通理解、認識のもとに大きな成果を挙げることが出来た。落ち着きを見せてきた証として問題行動件数も激減した。また、新たな時制と40分登校の浸透で生徒の遅刻に対する自覚も見え始め遅刻数も減少している。</p>
	<p>反省点</p> <p>生徒のモラル、マナーの欠如が感じられ道徳教育を深く実践し、多様化する生徒に対してきめ細かな指導の必要性を感じた。問題行動の減少と対照的に交通事故件数が増加傾向にある。傘さし運転の禁止、雨合羽の着用の励行、通学路危険箇所の周知等を行い事故、違反の減少に努める。学校評価を受けて職員間での研修会や情報交換の必要性を感じた。さらなる基本的な生活習慣の確立を目指し次年度に向け分掌会議等で検討を重ねていきたい。</p>
	<p>来年度へ向けての課題・目標:</p> <p>通学時の交通事故防止の為に指導を強化していきたい。通学の安全確保には生徒の行動が大きく関わるので、生徒の行動の自己管理が極めて重要になる。通学路危険マップ等の作成、周知等安全管理だけではなく計画的な安全指導が不可欠であり、両者を特に密接に関連付けるべきである。登校指導・下校時指導を随時行い通学中の安全啓発や服装の乱れ等も指導を行いながら、本校の生徒としての自覚と事故防止の啓発を合わせて行う。学校評価を受け家庭との連携、連絡を密にし、学校方針を理解していただきながら協力を求めていく。全職員間で指導の中に温度差が生じることなく研修会等を行い、共通認識のもと健全な生徒像を目指し適切な指導を今後も心がける。</p>

今年度の評価・反省点:**良かった点(項目)**

・評価全般については例年と同様の傾向であり、今年度特に大きく変化している事項はない。3年次保護者の記述による評価のいくつかで、本校の進路指導が一人ひとりの生徒にきめ細かく対応していることが評価されているのは嬉しい。進路指導についての評価は、このような「学校評価アンケート」以外にも、実際の内定・合格状況で直接的に評価されるという性格を持つ。その観点では今年度、高校生採用の減少と厳選採用化、県内上級学校の推薦入試の難化という厳しい状況下で、質的にも量的にも、例年以上の成果を上げていることが最も「良かった点」になろう。

反省点

・1・2年次保護者の記述による評価の中に、本校の進路指導の特徴が分からないという声があった。確かに、3年次の保護者と異なり、進路指導面での学校との接点が少なく、情報も少ないことは否めない。この点については新年度改善していきたい。また、教員の記述による評価の中で、小論文・面接を中心とする「個別指導」についての意見が多く上がった。傾聴すべき意見がある一方で、現状の指導の一面しか見ないで判断している意見があったことは残念である。「個別指導」についてはこれまで3年ほど、係・年次・教科等で議論し、改善を進めてきた。本校の進路指導の中では、教師に最も負担を強いる指導(放課後や長期休業中に長時間の指導になることがある。また、指導の性格上、教師にも絶えざる指導力の向上や生徒に関わる上での根気や忍耐力が要求される)の故に、さまざまな意見があり、全体的なコンセンサスを得ることは難しいのが実情である。また、小論文等の指導は、毎年その能力も意欲も異なる「生身の生徒」を相手にしている。組織的で計画的な「個別指導」が必要であることはいままでもないが、多様で変化する生徒に応じて、指導方法を工夫し、臨機応変にアレンジしていかなければ、「難易度が高く競争も激しい大学」等の合格は難しいのも現実である。また、そのような指導のために、「リーダーシップ」を取って、技術や方法の面でも意欲の面でも、生徒を高めていく人材を校内で育てていくことが非常に重要だと思われる。同様のことは、採用試験が厳しい企業への個別指導にも言える。本校の「個別指導」に課題が存在していることは係としては充分認識している。今後も、「課題を改善する発展的な意見」、「単なる否定ではない具体的な代案」を意見として、学校評価の一部として提示していただきたい。

進路指導

来年度へ向けての課題・目標:

上記の反省点に基づき、「個別指導」についての改善策を提案をしたい。その前に、本校の進学指導の考え方を確認しておきたい(以下は、ここ数年間の職員会議で承認されてきたことである)。本校では、教師の進学指導の業務を次のようにシフトしてきた。①「基礎学力」向上のための課外については、VOD課外・学習を中心にして運営する。教科担当は、確認テストの作成・採点や生徒からの質問の対応を行う。全教師が分担して放課後や土曜日に監督の業務を行う。②課外等の負担が少ない分、教師のマンパワーを「個別指導」に振り向ける。進学のための小論文・面接の個別指導、教科学力のための個別支援となる。関連して、就職の個別指導も強化する。この①②のシフトが、本校の進路指導の特色である。このシフトの枠組みについては、若干の反対意見はあるものの、大多数の教師によって支持されてきたと考えている。次年度もこの路線を継続していきたい。その上で、特に小論文の「個別指導」については、別紙の「小論文指導全体計画(3カ年版)」の通り、1・2年次の指導を強化し、3年次の指導については、これまで秋季に実施してきた国公立大学希望者に対する「小論文特別指導」を発展的に解消し、その他の短大・大学進学希望者も含めて、新たに「グループ指導」を導入し、夏季休業中を中心に指導していく。それに伴い、個別指導の指導開始を9月にする。この変更によって、3年次の生徒に対して、5・6月の「小論文VOD学習」→7・8月の「グループ指導」「小論文特別講座(外部講師)」→9・10・11月の「個別指導」の「3段階」「3ステップ」による指導を行うことになる。その他の課題として、保護者に対する進路情報の提供があるが、これについては、学校ホームページをもっと活用し、情報提供を積極的に行っていきたい。保護者対象進路講演会の案内や電子メール(進路指導部アドレス宛)での講演会の申し込みについても検討していきたい。

今年度の評価・反省点:**良かった点(項目)**

- ・職員32・33など 本年度も職員に関して総務総合学科関係はほとんどの点で高い評価となっている。
- ・職員36 インターンシップの意義と社会的必要性を認めている。
- ・生徒11 産社・総合学習が4分の3の生徒に考え方の醸成として役立っている。
- ・保護者24 80%超の保護者がKJ通信やホームページの情報を利用している。

反省点

- ・職員34 職員評価で自己実現の継続性について達成感がやや低くなっている。
- ・職員35 約19%の職員が課題研究の指導方法に達成感を持っていない。
- ・生徒27 約4割の生徒は、KJ通信、ホームページなどに関心が薄い。
- ・保護者5 70%超の保護者が産社や総合学習の学習内容に関心を示している。

来年度へ向けての課題・目標:

- ・職員34 自己実現の継続性を図る手だてを工夫する。
- ・職員35 課題研究の学習方法の研究工夫を行う。
- ・生徒11 産社・総合学習が残りの4分の1の生徒に役立つような工夫が必要である。
- ・生徒27 内容等工夫してより多くの生徒にKJ通信やホームページ情報を利用してもらおう。
- ・保護者5・24 より多くの保護者に産社や総合学習の内容を理解してもらうために、KJ通信、ホームページでの情報発信の強化や授業参観機会を増やすなどの工夫が必要と考える。

学校全体としても次のことに取り組んでいく必要がある。

今までの学校関係者の学校評価から発展させ、第三者による学校評価を行う準備を行う。
甲府城西高校と生徒の変化を、多くの係から外へ情報発信を行い、入口と出口の拡大を図る。

総務総合学科

今年度の評価・反省点:**良かった点(項目)**

- 1 基本的な生活習慣のあり方や自己の健康管理、保健室の正しい利用方法・マナーなどを「保健だより」(毎月発行)で喚起したが、保健室の来室者もH20年度は2,456人、H21年度は1,601人今年度は1/21(金)時点で1,500人位である。心身ともに健康な生活が送れる良い方向に向かっている。これも、養護教諭の加配(週20時間)によりスムーズに実施できているといえる。
- 2 保健室が健康管理センター(心身共に)として機能するように、校医との連絡を密にし指導助言を受けながら健康観察を実施した。(特に感染症について)
- 3 学校行事の中に保健健康に関わる教育行事を昨年度、3年次生の「性教育」を単立ち教育として定着させたが、新たに1年次生にも「体のリズムを知ろう」として高校生活のスタートとして、基本的な生活習慣を見つめ直す機会を設け、社会変化に対応できる教養育成や意識改革を図ることができた。
- 4 安全点検を年3回実施しているが、点検エリアを部活動エリア拡大して実施した。さらに、管理職と環境との合同点検を年2回(学園祭前と後期入試直近)に実施し、通常点検で盲点になりやすい箇所(例えば敷地フェンスなど)の点検も実施して、学校全体の危機管理の充実を図った。これにより、年5回の安全点検となった。

反省点

- 1 今年度は部活動中の傷病が多く、また、治療に長期化した生徒も多く振り込まれるまでの所要時間がかかり、問い合わせも多かった。書式提出がスムーズになるとよい。
- 2 今年度は、各種健診について生徒指導が大変で、校医からもおしかりを受けた。健診中の待機態度や異動について検討すべき点があった。(係だけでなく、学年に依頼しないとスムーズに進まない。) また、健診の曜日が同じ曜日になりがちで教科担任からも問い合わせがあったが少しでも変更できるように校医に交渉してみることにした。(おそらく無理であろうが・・・)

保健安全

来年度へ向けての課題・目標:

- 保健室が健康管理センター(心身共に)として機能するように、学年と保健室が相互の情報を「密に必ず」提供共有し合い、知らなかったことがないように危機管理機能をもっと向上出来るように、各学年に分掌係を配置していただきたい。
- 「保健だより」(毎月発行)でさらに基本的な生活習慣のあり方や自己の健康管理、保健室の正しい利用方法・マナーなどを意識付けさせる。
- 保健室の正しい利用方法を「保健便り」でも伝えているが、安易に医療機関の代用と考えている保護者もいるようだった。(発熱なのに登校、内服薬の要求など)今後も、適切な対応を徹底し、健康指導を強化していきたい。
- 定期安全点検のあり方を点検項目や形態から再検討し(清掃関係と切り離す)、危機管理上の運営に支障がないように改善したい。
- ◎ 生徒の在室が絶えないので、メンタルな問題の生徒に対応できる空間がない。何とかならないか考えていただきたい。
- ◎ 保健安全と教育相談分掌合体は、本校の場合無理がある。特に学習障害生徒などのマニュアル作成などが今後出てくれば、しっかりした対応がどちらも困難になるのは明らかである。(保健室はじっくり話を聞く体制が現状は不可能ことが多い)
- ◎ 来年度も今年度同様に活力ある保健安全の運営のためには養護教諭の加配は不可欠であるので、ぜひ、お願いしたい。

今年度の評価・反省点:**良かった点(項目)**

- 学校行事(学園祭を含む)において、自主的・計画的に行われているとの間に、職員・生徒・保護者の約8割が「達成できた・ほぼ達成できた」と回答している。
- 部活動においても、活発に行われているとの回答が職員9割、生徒8割、保護者6割である。
- 学校行事・部活動において、生徒が積極的・自主的に参加している姿が見られる。

反省点

- 学校行事において、達成できていないと感じている職員・生徒・保護者が2割近くいる。
- 希城祭舞台発表時に、携帯電話を使用している生徒が目立つ。
- 希城祭の体育館内が非常に暑く、舞台発表に集中できない。また、体調管理も難しい。
- 職員「問53」から、ボランティアへの評価が低い。

生徒会

来年度へ向けての課題・目標:

- 学校行事においては内容をより充実させ、生徒ひとり一人が達成感を感じられるよう計画する。
- 希城祭舞台発表時の携帯電話使用については、生指・年次と協力し、持ち込みを禁止にするなど、対処法の検討が必要。
- 希城祭の体育館内の空調については、レンタルを検討したい。費用がかかるので、PTA総会での保護者への説明・理解が必要。
- 生徒のボランティアに対する意識を高めるため、ボランティアボードの活用や行事への参加等、検討が必要。
- 部活動においては、文化局の入部率を上げることで、学園祭の発表等もより活発になる。

教育工学	今年度の評価・反省点:
	良かった点(項目) ・学校だよりやHPでの情報発信【職問70, 保問24】については職員, 保護者の8割以上が達成できたと答えている。 ・情報機器の有効利用【職問71, 生問28】については, 職員, 生徒の8割程度が達成できたと答えている。
	反省点 ・職員の教育情報機器を活用した教材作成について【問72】, 25%が達成できなかったと答えている。
	来年度へ向けての課題・目標: ・教育情報機器の活用事例を提案し先生方の教材作成を支援する。
教養研修	今年度の評価・反省点:
	良かった点(項目) ・授業力向上をめざす取り組みに全職員を巻き込んだ実践ができた。(問14) ・総合教育センター主催の研修会への積極的な参加が見られた。 ・図書館だより(生徒用・教員用)、図書委員会だよりなどが予定どおり発行できた。(問79) ・図書室利用への要望に対し, 対応ができた。
	反省点 ・研修に関する項目(特に問15)の達成度が低い。今年度はいくつかの研修会の資料を職員室にファイルで閲覧できるようにしてみたが, 広報が足りなかった。 ・図書室は教科の授業では様々に活用されているが, 課題研究での利用がほとんどなかった。インターネットによらない資料収集の利点を知らせたり, 図書室へ足を運んだことのない人にもきてもらえるような工夫が必要。(問76) ・読書の時間がうまくもていない状況がある。各年次への働きかけ, 協力要請をもっと強めるべきであった。
	来年度へ向けての課題・目標: ・読書の時間を効果のあるものにすべく, 各年次・先生方に働きかける。 ・図書室の利用をふやすための工夫, 働きかけをさらに心がける。 ・研修会等の情報提供にさらに努める。 ・平成24年度の芸術鑑賞会実施に向けての計画をする。
教育相談	今年度の評価・反省点:
	良かった点(項目) 今年度は, 毎月1回, 各年次から欠席の多い生徒をあげてもらい, 問題生徒の把握に努めた。外部機関の紹介など, 多少担任の支援が出来たと思う。また, 保健安全部との話し合いの機会も, 昨年よりも多く持つことが出来たため, アスペルガー症候群の生徒など大きな問題を抱えた生徒についての共通理解がはかれた。中学校との連絡会をもつことができたためか, 1年次生に突然不登校状態になってしまう生徒や, 転退学してしまう生徒が出なかった。
	反省点 問40 教育相談の研修会を実施しなかったため, 生徒理解のための資料提供や情報交換が適切に行えなかった。来年度は, 保健安全部と連携して適切な研修会を実施したい。また, 教育相談便りの発行が少なかった。 問43 今年度はスクールカウンセラーが設置されなかったため, 悩み相談を気軽に出来る体制が作れなかった。外部の機関と連携し, 校内で悩み相談を行えるように体制作りを努めていきたい。
	来年度へ向けての課題・目標: 個々の生徒の精神的面での支援が, 担任に任せっきりにされている状態を改善していきたい。プライベートの問題もあり, なかなか全教員の共通理解がはかれないが, より多くの教員が関わって生徒支援が出来るよう実践例等を収集していきたい。また, 外部機関との連携も今まで以上に行っていきたい。
環境整備	今年度の評価・反省点:
	良かった点(項目) ◎環境美化に向けての取り組みは昨年に比べて若干良くなっていることから, 美化意識が芽生えたのかと考えられる。 ○ガムのポイ捨てが少なくなった。ゴミの分別も良い。
	反省点 ○日常の清掃活動が未だ全生徒には徹底されない状況である。清掃監督をする先生側もしっかりとした指導が必要であると思われる。 ○資源のリサイクルなどの環境教育は先生方は強い意識が見られるが, 生徒は薄いようである。どこで環境教育を行えばよいか課題である。空き教室の消灯等が出来ていない。
	来年度へ向けての課題・目標: ○美化活動への積極的な参加する意識の高揚をどのように持って行かせるかが課題である。

渉 外 厚 生	今年度の評価・反省点:
	良かった点(項目) PTA研修会を2回開催したところ、参加者からは好評の声が多数あった。とくに、2回目の研修会で役員以外のPTAが参加してくれた。
	反省点 生徒を通しての配布物やPTA新聞が家庭に届いていないようであった。
	来年度へ向けての課題・目標: PTAへの配布物は今まで通り生徒を通して行う。ただし、本校のHPにPTAからのお知らせを載せるようにしたい。保護者の携帯電話にメールでお知らせが届けられるか検討する。
一 年 次	今年度の評価・反省点:
	良かった点(項目) ・本校の特色である産社や履修登録について満足度が高いところがよかった。 ・進路に向けて早い時期から取り組んで、保護者から感謝されている点。 ・教員問38 生徒指導において、1人の生徒、1つの件に対しても多くの先生が関わり、指導しておく体制に助けられた。全体での共通売り買い、フォローしていくスタイルは大事だと思う。 ・数学の成績不振者に対する補習はとてもよかったと思う。
	反省点 ・学校からの連絡を確実にという意見があることから、ちょっとした変化に対しても連絡を密にしていける必要があると思います。 ・総合学科高校は初めてで産社の目的や位置づけがよくわからなかった。 ・全体を通して職員間の共通意識があまりなく、指導する際に困ることがある。 ・問58など 生徒の自主的な取り組みがあまりなされていない。 ・保護者問6 わかりやすい授業が行われているかどうか分からないと答える保護者が3割いるので、授業公開のやり方や授業でどのようなことをしているか伝えること等の工夫が求められているのではないのでしょうか。 ・生徒問20, 21 環境美化、リサイクルについての達成度が他と比べて低めなので、生徒自身にもアンケート結果を知らせ、意識の向上につなげられるといいと思います。 ・服装・頭髪指導で保護者に理解されていない面について、1年次・生指で話し合いが必要だと思う。 ・教員問15 研究研修の時間は確保するのが難しい現実がある。長期休業中はまだしも、通常業務の時は会議・生徒指導などがあり、なかなか余裕をもって参加できない。 ・生徒問12 他年次と指導が違うと感じているからかもしれない。生徒指導部でも、日常の指導をどうするのか、反省文等、話し合っってガイドラインを決めてほしい。「ある年次はこうしている、ある年次ではやっていない。」ということが多い。
来年度へ向けての課題・目標: ・問60 ゴミ捨ての方法やリサイクルなどこまでするかはっきり示した方がよいと思います。例えばペットボトルはラベル・キャップをはずすクラスもあれば、そうでないところもあり、また紙類もきちんと伝えればミックスに分別できる。伝え方で改善できると思う。 ・基礎学力が不足したまま入学してきてしまっている生徒が多い。「小数点のかけ算や割り算、分数の計算もわからない。でも今更聞けないし…」というようなことを生徒が言っている。フォローしてあげられる機会があればいいと思う。 ・生徒間の人間関係をよく把握できるよう意識をもって取り組みたいと思います。 ・生徒指導・進路指導を中心に職員間が連携し、年次関係なく同じ歩調で生徒に接した方がよい。 ・日々の小さな指導から徹底する。授業開始時にはマフラーを取る、カバン・飲み物を片付ける、ボタンをとめるなど。生徒は逆にこちらを試している(この先生は注意できるかどうか)。まずは授業に臨む態勢をつくって授業を始める。	

二年次	<p>今年度の評価・反省点:</p> <p>良かった点(項目) 職員評価(問67)の「年次指導目標が、所属職員に周知徹底されているか」が93.7%と達成できている人が多い。年次という組織がしっかりと統率され、生徒のための学校作りができている。これを学校全体という流れにしていきたい。一貫した指導で皆が丸となって生徒に対応できたこと。問題を常に共有し、その解決に当たれたこと。2年次保護者からの記述意見が少なかったということは、生徒との普段からコミュニケーション・意思の疎通が図られているという意味にも解釈できるのではないか。</p>
	<p>反省点 生徒評価(問25・26)の「先生は公平な態度で指導してくれる」「先生との間に信頼関係ができている」の評価が低いと感じる。年次内であっても厳しく指導しているクラスとそうでないクラスがあったり、各年次間であっても指導に温度差があることが原因しているのではないか。 やはり生徒が一番気にするのは「公平・平等」だと感じる。この「公平」や「信頼」が学校を良くしていくための根本になるのではないか。 教師は生徒に対し気づかせることが最も大事であると思う。ただ注意しただけ、叱っただけでは高校生とはいっても、何故そう言われたのか理解していない生徒も多いのではないか。生徒は必ず教師のことをよく観察しているはずなので、教師もよく観察していないと生徒の変化、気持ちの変化などに気づかないことも出てきてしまうはず。何かから何まで手をさしのべていいことではないが、生徒の状況を理解しておくことは大事になると感じている。 この評価を見て改めて教師として一番大事にしなければならないことは何かを考えさせられた。</p>
	<p>来年度へ向けての課題・目標: 個々の先生方の意識の違いを解消していくことが必要だと感じる。 年次の統一はできているのに、指導の段階での温度差で「信頼を欠く」ことになっていることを改善する必要がある。 生徒との信頼関係の築き方をもう一度見つめ直す。自分の年次だけ良ければいいという考え方ではなく、教員全体が共通意識を持てるようになればもっと素晴らしい学校になると思う。また、何事にも一生懸命に取り組むことが大切である。</p>
三年次	<p>今年度の評価・反省点:</p> <p>良かった点(項目) ・「問23 進路関係の情報が的確に収集され、活用しやすく整理されている。」は就職氷河期といわれる厳しい雇用情勢のなかで、就職・進学が決定できたことが大きな要因である。先生方の指導体制が評価されたのではないだろうか。</p>
	<p>反省点 ・「問12 多くの先生方は公正で公平な評価をしてくれる」、「問16 先生方は同じ歩調で生徒指導に当たっている」、「問26 年次や担任の先生方との間に、信頼関係ができている。」…生徒指導のなかで職員と生徒の信頼関係が薄くなりがちになる。生徒との意識の違いや距離感をどう保つかは課題である。 ・「問20 環境美化・清掃活動が積極的に行われている。」、「問21 学校は節電、節水、および資源のリサイクル活動に取り組んでいる。」…今後その重要性を指導していかなければならない。 ・「問27 KJ通信、年次通信、ホームページなどで学校内の情報が適切に伝わっている。」…学校から情報を発信しているが達成率が低い。</p>
	<p>来年度へ向けての課題・目標: ・総合学科高校の特色を生かすためには余裕ある日程のなかで、生徒と懇談や面談のできる時間をもっと多くとり互いの理解を深める必要があるように感じる。 ・日常の清掃活動への取り組みを強化させ、校内美化に努めさせたい。 ・社会人になるために必要なマナー・モラルや挨拶・言葉遣い・身だしなみを継続して指導する必要がある。</p>